

開設年度		開講部局	
2014		共通教育	
科目名			
鹿児島から考える持続可能な社会			
英語科目名			
Considering Sustainable Society from Kagoshima			
前後期	開講区分	科目形態	単位数
後期	毎週	講義	2
(25年度以降入学生)中分類		(25年度以降入学生)小分類	
a. 実践・判断・精神力		6. 環境を学ぶ	
(24年度以前入学生)大区分		(24年度以前入学生)中区分	
教養科目		分野3	
受講学部学科			
全			
担当教員		担当教員所属	
萩原 豪		稲盛アカデミー	
連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)	
099 - 285 - 3757		k6219828@kadai.jp	
オフィスアワー (授業時間外の対応)			
水曜3限			
共同担当教員			
田中弘允・酒井佑輔			
メインキーワード		サブキーワード	
自己の確立		社会問題への理解と実践	
授業概要 (目的・内容・方法)			
<p>本授業の目的は、地域における活動に積極的に関わり、社会の発展に貢献できる行動力を養うことである。</p> <p>本授業の内容および方法は、以下の通りである。</p> <p>(1) 現代社会が直面している「持続可能な社会」の構築という問題に対する手段のひとつとしての環境教育・ESD (持続可能な開発のための教育) について学び、自分が当事者のひとりであることを理解する。</p> <p>(2) 「進取の精神」をもって「持続可能な社会」を足下から作っていくための活動を、グループごとにプロジェクトを企画し、鹿児島大学構内で実践する。本授業では [かごしま茶×マイボトル] というテーマに基づいて、プロジェクトを進めていく。</p> <p>(3) 鹿児島の地域資源について理解を深めるため、南九州市において研修合宿を行う。</p> <p>地域社会およびプロジェクトの実施現場での活動に積極的に参画するなかで、「持続可能な社会」の構築に対する行動力を涵養する。</p>			
学習目標			
<p>(1) 「持続可能な社会」の構築に貢献できる行動力を養う。</p> <p>(2) グループワークなどの協働作業を通じて、問題発見・認識力およびコミュニケーション力の習得と、積極性や責任感の醸成。</p> <p>(3) プロジェクトの企画やレポート作成などを通じて情報収集力やITスキル (PCやインターネットの使い方)、文章力やプレゼンテーション力の習得。</p>			
授業計画 (15回に分け、回数、授業内容、自学自習等)			
<p>1. ガイダンス</p> <p>2. 「持続可能な社会」とは何か</p> <p>3. 「持続可能な社会」とESD (1)</p> <p>4. 「持続可能な社会」とESD (2)</p> <p>5. 「持続可能な社会」とESD (3)</p> <p>6. 「持続可能な社会」とESD (4)</p> <p>7. 「持続可能な社会」とESD (5)</p> <p>8. ESD実践 (1) [プロジェクト企画]</p>			

- 9. ESD実践(2) [プロジェクト企画]
- 10. [研修合宿]南九州市頰娃町(12月6日(土)) (NPO法人おこそ会、茶寿会の活動地見学)
- 11. [研修合宿]南九州市知覧町(12月7日(日)) (特攻平和会館・後岳日本茶農園の見学)
- 12. ESD実践(3) [プロジェクト実践]
- 13. ESD実践(4) [プロジェクト実践]
- 14. ESD実践(5) [プロジェクト最終報告会](1月24日(土))
- 15. 振り返り(まとめ)

* 研修合宿およびプロジェクト最終報告会は週末の時間を利用して行う。これは正規の授業として実施するものであり、授業時間数に読み替える。詳細については第1回目の授業(ガイダンス)で連絡する。

授業外学習(予習・復習)

各授業の際に指示をする。グループワークについては授業時間外にグループメンバーと連絡をとりあったり、プロジェクトの実施および発表準備などの作業をする必要がある。

受講要件	成績の評価基準
本講義のテーマに関心を持ち、自らが「持続可能な社会」に対する活動を実践したいと思っていること。	授業への参加度(授業態度や参画度など):60%、課題等提出物(リアクションペーパーやレポート、最終レポートなど):40%、で総合的に判断する。なお、最終レポートの提出がない場合は評価対象外とする。
教科書	参考書
特になし	授業中に指示をする

その他

[学外研修および研修合宿について]本講義では研修合宿を行う。交通費・宿泊費・研修費などの費用は実費自己負担で、例年、研修合宿は17,000円前後(宿泊費・交通費・研修費込み)となる(参加人数によって変動あり)。なお、学生教育研究災害傷害保険に加入していることが条件である。

[注意]第1回目の授業でグループワークを中心とした講義の進め方、研修合宿に関する説明を行う。履修希望者は、第1回目の授業に必ず出席すること。履修登録人数が多い場合は第1回目の授業時に抽選を行う。